

ゴルフトーナメントの持続的開催に向けて

The ways to maintain number of golf tournament in Japan

1K05B501

指導教員

主査 武藤泰明先生

井上 直哉

副査 間野義之先生

これまで、ゴルフといえばサラリーマンの接待でよく使われることもあり、男性(特に中高年男性)をターゲットとしたスポーツというイメージが強かった。しかし、近年、宮里藍、横峯さくら、上田桃子といった実力と人気を兼ね備えた若手女子選手や、高校生ながら、プロゴルファーとなり、ツアー参戦一年目で、年間獲得賞金一億円突破という快挙を果たした石川遼の登場をきっかけに大きくそのイメージは変化した。具体的には、女子プロがテレビ中継でよく映る爪にマニキュアを塗るなど気を遣い、ファッショナブルな服装でプレーすることにより、若い女性からゴルフ＝おしゃれというイメージを持たれるようになった。そしてその影響からか、ゴルフをしながらコンパをする“ゴルコン”という言葉が生まれた。また、自分の孫や息子を応援するような気持ちで、石川遼に興味を持ち、その結果、ゴルフに興味を持つ中高年女性が増えている。このように、現在、ゴルフは、幅広い層の人々に関心を持たれるようになり、また、競技面でも、他のスポーツに比べて、年齢という要素に影響を受けにくく、野球、サッカーといった日本で最も人気のあるスポーツの一つになる可能性を十分に持つスポーツとなった。

著者は、今回、そういった大いなる可能性を持つゴルフというスポーツのさらなる発展、普及を最終的な目標としている。そして、その目標の達成を目指す上で、ゴルフの素晴らしさ、面白さを多くの人々に伝えることができることから、重要な役割を果たしているプロゴルフトーナメントに注目し、研究を行っていく。

現在のゴルフトーナメントでは、大会資金のうち、

多くの部分で、主催者企業の負担に頼っている。

そして、その負担額は、標準的な規模の大会でさえ、約三億八千万円と、莫大な金額になっている。このような大会資金の現状は、トーナメントの持続的開催に対して大きなリスクとなっている。なぜなら、スポンサーの拠出する資金は、企業から見た場合、企業活動において副次的な広告宣伝費の性質を持っており、その供給が不安定であるからだ。つまり、景気の悪化などにより余剰資金の不足から、広告宣伝活動を控えることになれば、企業は、ゴルフトーナメントから撤退し、たちまちトーナメントの開催は中止となる。

実際に、アメリカ発のサブプライムローン(低所得者向け住宅ローン)問題による世界的な金融危機の影響から、アメリカでは、来期、女子ツアーで3試合の減少が決まっている。そして、日本でも、来期、アコーディア・ゴルフレディス、ベルーナレディスカップの開催中止が決定しており、カゴメフィナンソロピー・プレーヤーズ選手権では、メーンスポンサーのカゴメが、撤退を考えており、いまだに代替りのメーンスポンサーが決まっていない状況である。このように、論文内で述べている大会資金における、スポンサー料への過度な依存が原因となって、実際にトーナメントの中止が起きている。そして、このようなことが起こらないために、現状をどのように変えればいいのかを考える本論文は、タイムリーなものであり、またこれからのゴルフ界にとって非常に大きな意義をもつものとなるだろう。

そして、論文の中では、スポンサー料以外の収入を増やすことによって、企業の負担を減らすと

いう観点から、スポンサー料の性質変更、新しい会員制度、チケットの販売方法の多様化について考え、トーナメント開催にかかるコストの削減によって、企業の負担を減らすという観点からテレビ放送について考えている。特に、チケットの販売

方法の多様化とテレビ放送については、実際にどれほどの効果があるか、具体的な金額が算定されており、その上で、十分に実用化が可能であると結論付けている。